

年 あいさつ



豊岡市長 関貫久仁郎 かんぬきくにお

誰もが平穏無事で、健やかな一年を

あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症との闘いに明け暮れた1年間でした。度重なる緊急事態宣言の発出によって、市民の皆様には、大変なご苦労とご不便をおかけしました。市は、市内の景気対策などに継続的に取り組みながら、ワクチン接種の推進に全力を注ぎました。本年は、3回目のワクチン接種を進めていきますが、油断できない状況が続きます。それでもしっかりと感染症対策を行いながら、市民の皆様と一緒に、少しずつ前に向かって歩んでいきたいと思います。

明るいニュースもたくさんありました。

4月には、芸術文化観光専門職大学が開学しました。夢を持った第1期生84人の学生たちがやってきました。この豊岡の地で、彼ら・彼女らの夢を大きく育ててほしいと思います。7月には、東京オリンピックに出場するドイツとスイスのボート代表チームが城崎で事前合宿をされました。そのオリンピックでは、本市出身の小西杏奈選手が活躍されました。「豊岡演劇祭2021」はやむなく中止となりましたが「第6回コウノトリ未来・国際かいぎ」は、7年ぶりに開催することができました。そして何より一部の地域では、お祭りなどの行事が、学校では運動会などが久しぶりに実施され、イベントを楽しまれた方もおられたのではないかと思います。

昨年は、まちの将来を見据えた計画も策定することができました。2月には「第6期豊岡市障害福祉計画・第2期豊岡市障害児福祉計画」を策定しました。障害のある人もない人も、共に支え合い、自分らしく笑顔で暮らせるまちになるよう、計画を推進していきます。3月には「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」、9月には「豊岡市多文化共生推進プラン」を策定しました。性別や人種に関わらず、みんなが主人公として活躍できるまちづくりを進めていきます。12月には「中期市政経営方針」を策定し、「豊岡市基本構想」に基づく今後4年間の市の具体的な取り組み方針を示しました。

新型コロナウイルス感染症によるさまざまな制限は、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の流れを劇的に加速させました。電子マネーやリモート会議は当たり前になり、働き方や学び方、遊び方も随分と変化しました。しかし、市役所の仕事や手続きの多くは、まだその変化に追いつくことができていません。本年は、豊岡市のDX元年にしたいと思います。市役所の事務を効率化し、市民の方に「便利になった」と言っていただけのような豊岡市役所版DXを進めていきたいと思っています。

最後になりましたが、市民の皆様お一人一人が、平穏無事で、健やかな一年を過ごされることを、心よりお祈り申しあげます。

新 年頭のご



豊岡市議会議長 木谷敏勝

新体制で決意新たに

あけましておめでとうございます。

昨年10月の市議会議員選挙の結果、多くの新しい議員が加わり、継続議員の経験と新たな感性が融合した議会運営ができるものと確信しています。今、豊岡はコロナ禍にあつて、これまで普通にできていた日常生活や営業活動すら続けることが難しくなり、明るい将来展望が見通せなくなってきました。この原稿を書いている現在にはコロナ感染者数も激減して城崎温泉、出石には観光客が戻り始めているといううれしい報告もありました。これからはスキーシーズンに入りますので神鍋高原に雪が降り賑わい、豊岡市のそれぞれの観光地の魅力を十分楽しんでいたきたいと願っているところです。お土産にはもちろん海の幸や農産物、豊岡靴や工芸品、お菓子のまちの品々等お買い求めいただき、自宅に帰られてからも豊岡市の魅力を味わっていただきたく願っているところです。ただここに至るまでにはあらゆる業種で時短や休業にご協力いただき大変なご苦労があったこと、そのことを決して忘れてはなりません。

議会として市民や事業所の皆さんに成り代わって豊岡市の行政の考え方を確認し、いち早く豊岡の進むべき望ましい道筋を決めた上で、関係者が一体となつて取り組める体制を構築しなければならぬと考えています。これまで地方自治のルールに基づいて手順を踏み、民間や国・県の理解と協力を得て進めてきた取組みは、

議員の構成が変わろうとも、相互理解なくしてその目標を変えることがあつてはなりません。

豊岡市の行政は、人口の減少、地場産業の停滞、コロナ禍、世界情勢の激変などにより、今まさに待ったなしの状況です。少ない税収でインフラ整備の受益者負担もお願いしなければならなくなります。

そのため、これまで先人が積み上げてきたまちづくりの流れと成果を踏まえ、市民の皆さん、行政、議会が共通認識の下、一丸となつて英知を集結して市民負担の軽減策を見つけ出し、その施策の実施に力強く取り組んでいかなければなりません。

どんなに便利で景観の美しいまちであっても、そこに生きる人たちの表情が生き生きとしていなければ「住み続けたい」とか「住んでみたい」と思われず、まちは輝きを放ちません。

喜び、豊かさ、魅力の感じ方は人それぞれなので、一人一人の暮らしに目を配り、市民の皆さんの思いに心を寄せ、きめ細やかな配慮にあふれる行政運営が望まれます。

議会として、十分な議論を尽くしてこれからも市民の皆さんの声に耳を傾け、市民感覚で行政のチェック機能をしっかりと果たせるように進めてまいりますので、今年も変わらぬご理解、ご協力をお願いします。

皆様のご健勝とご多幸を祈念申しあげ、新年のごあいさつとさせていただきます。

〔写真：来日岳から見るご来光〕

※掲載している情報は編集時点(12月16日)のものです。変更になっている場合がありますので、注意してください。